



—東地中海地域ニュース—

ヨルダン：S&P社がヨルダン国債格付を引き下げ (3月14日付ヨルダン・タイムズ紙)

1. 3月12日、英国の格付会社スタンダード・アンド・プアーズ社(S&P)は、財政状況の悪化および公的債務の増加を理由に、ヨルダン通貨建て国債の格付をBBBからBBB-に引き下げた。一方、ヨルダンの外貨建国債の格付はBBに据え置かれた。
2. S&P社の見方：
 - (1) 今回の格付引下げは、ヨルダンの中期的財政状況の悪化と公的債務の増加予想に基づいたものである。世界規模の経済低迷と海外からの無償資金協力の落ち込みにより、それまで過去5年間ほぼ均衡していたヨルダンの国家予算が2009年にGDPの約7.8%もの赤字に落ち込み、2010年の政府の緊縮予算でも、海外からの無償資金の減少と歳出の増加により、構造的に国債発行の増加は避けられない。また、2008年には減少傾向にあった公的債務も、2012年までにはBB基準の約2倍に膨れ上がると予想している。
 - (2) ヨルダン新政権による改革目標は、より多くの外国投資を呼び込み、投資家の信頼を向上させるが、その全面的な実現には時間もかかるであろう。
 - (3) 安定した政治システムの下で、中期的GDP成長率が回復すれば、ヨルダン財政は著しく強化され、構造的改革を促進させる。これらがヨルダン経済を外的要因にも耐えさせるための必要要素である。ヨルダンが公的債務率をBB基準内で収めるならば、さらなる財政の調整策により、中長期的格付を向上させ得る。しかし、財政・経済改革の実施を間違えば、ヨルダンの外貨および現地通貨の格付のさらなる引き下げにも繋がることになる。